平成25年度
愛知県臨床検査精度管理調査報告会
病理検査部門

精度管理事業部員　住吉尚之（江南厚生病院）
実務担当者　橋本克訓（名古屋大学医学部保健学科）
実務担当者　樋口美砂（名古屋第一赤十字病院）

はじめに

- グロコット染色

  真菌を検出する組織化学的手法

  放線菌、ノカルジア、ムコールにも適する

参加施設数・材料

- 参加施設数

  病理検査部門参加施設数　４８施設

- 材料

  １０％ホルマリン固定後の剖検材料（腎臓）

  ４μｍの厚さに薄切した未染色標本

評価項目と採点基準

- 評価項目
  1）カンジダの染色性
  2）共染の有無
  3）銀粒子付着の有無
  4）後染色の染色性
  5）標本切片の剝がれ
- 採点基準
  良:8点、可:4点、不可:0点
  良:3点、可:2点、不可:0点
  良:3点、可:2点、不可:0点
  良:3点、可:2点、不可:0点
  良:2点、不可:0点

評価点数

- A評価（染色上目的を十分に達している）

  カンジダの染色性が6点以上かつ、総得点が16点以上
- B評価（染色上目的を達しているが更なる向上が望まれる）

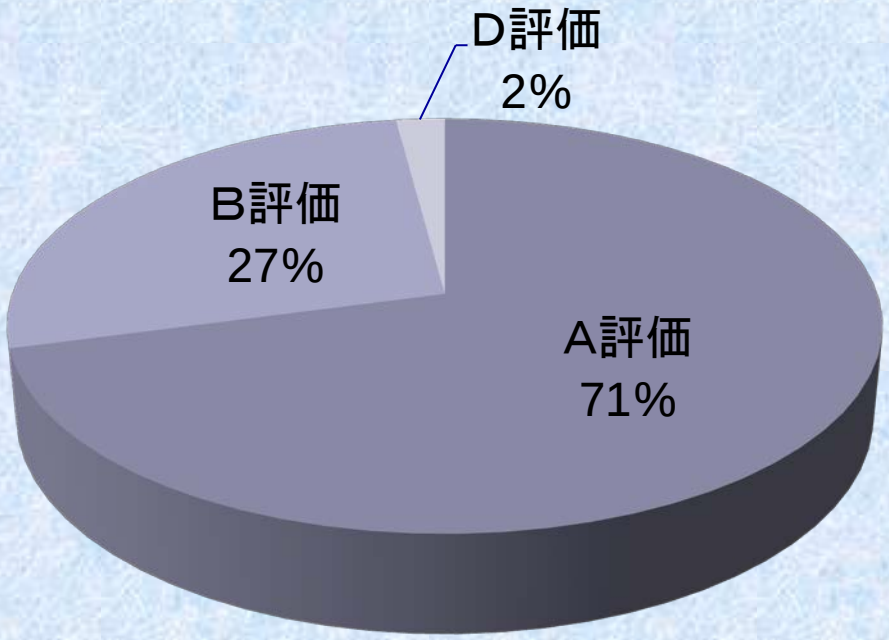
  カンジダの染色性が4点以上かつ、総得点が12点以上16点未満
- C評価（染色上目的を達しておらず、改善の必要がある）

  カンジダの染色性が2点以上かつ、総得点が10点以上12点未満
- D評価（染色上目的を達しておらず、診断に支障をきたす可能性がある）

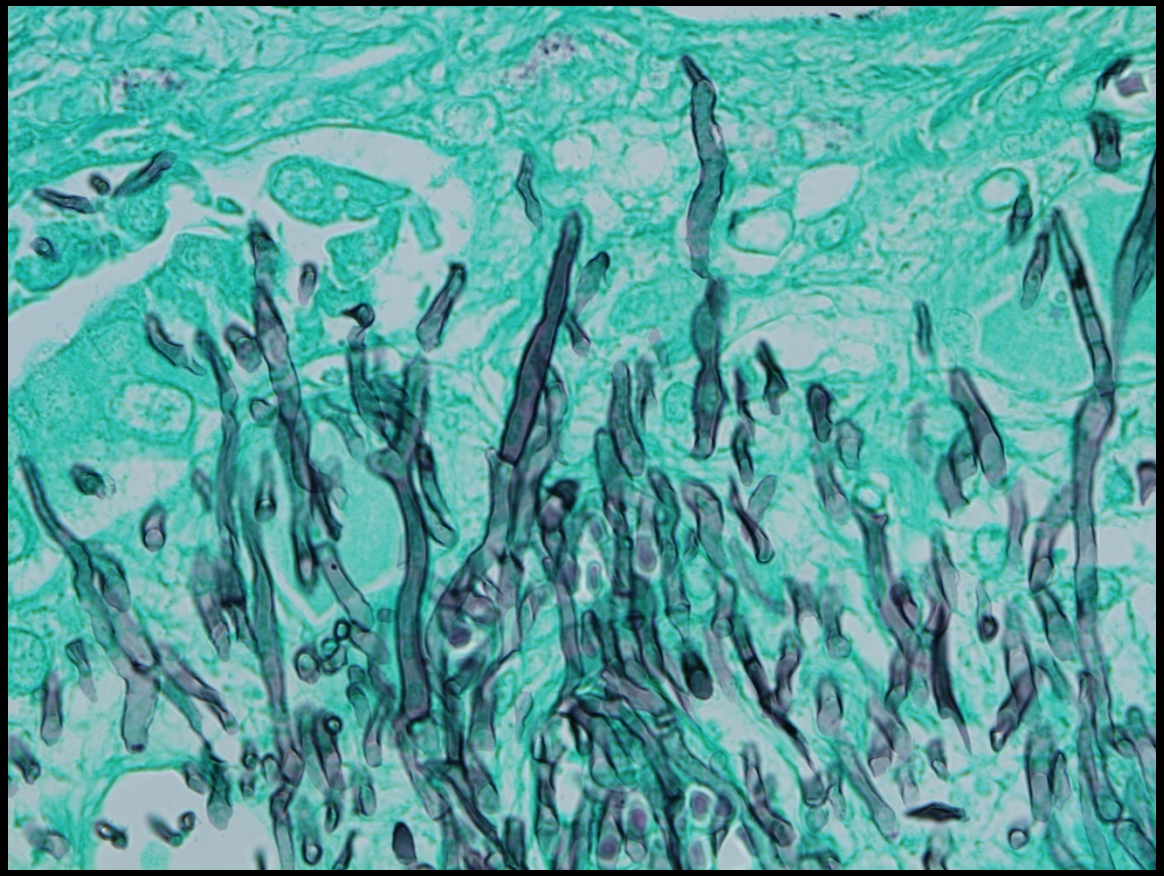
  カンジダの染色性が2点未満かつ、総得点が10点未満

結　果

- A評価　34施設
- B評価　13施設
- D評価　　1施設

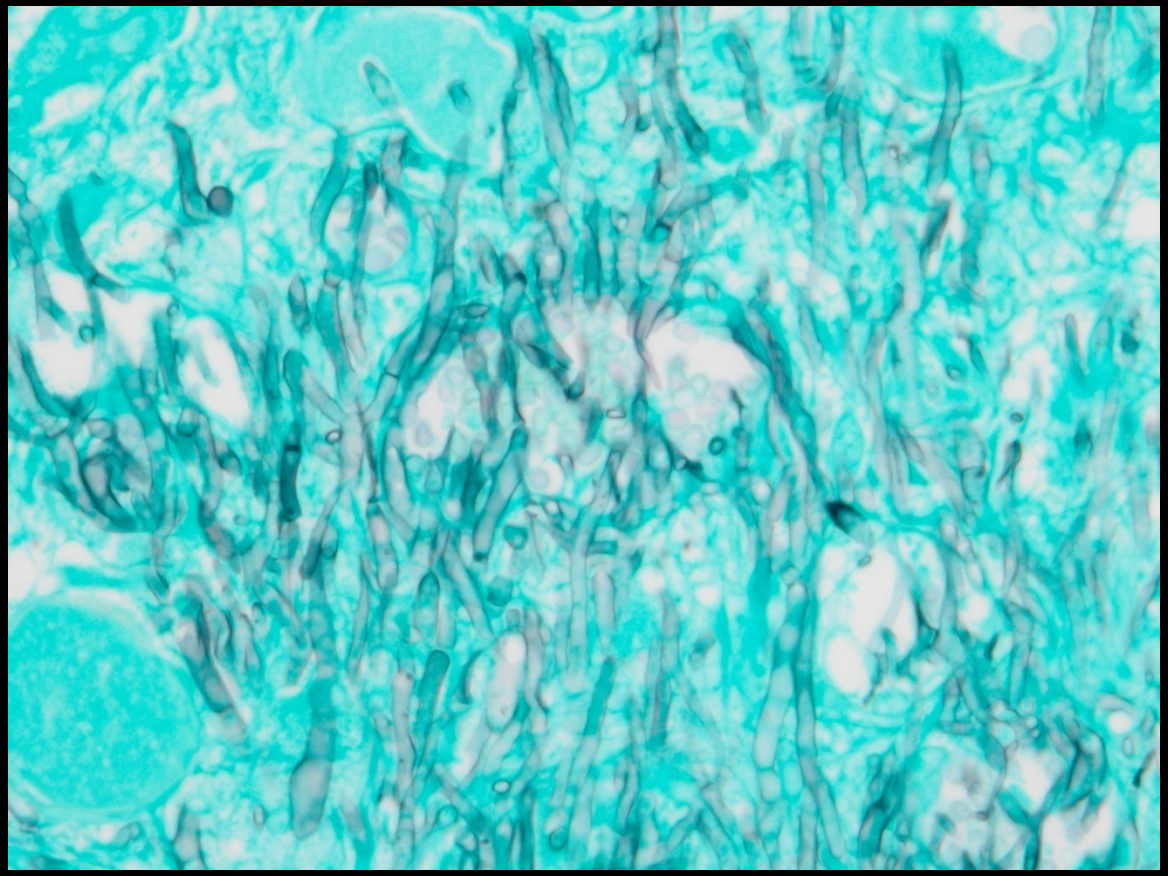


高評価施設のグロコット染色標本



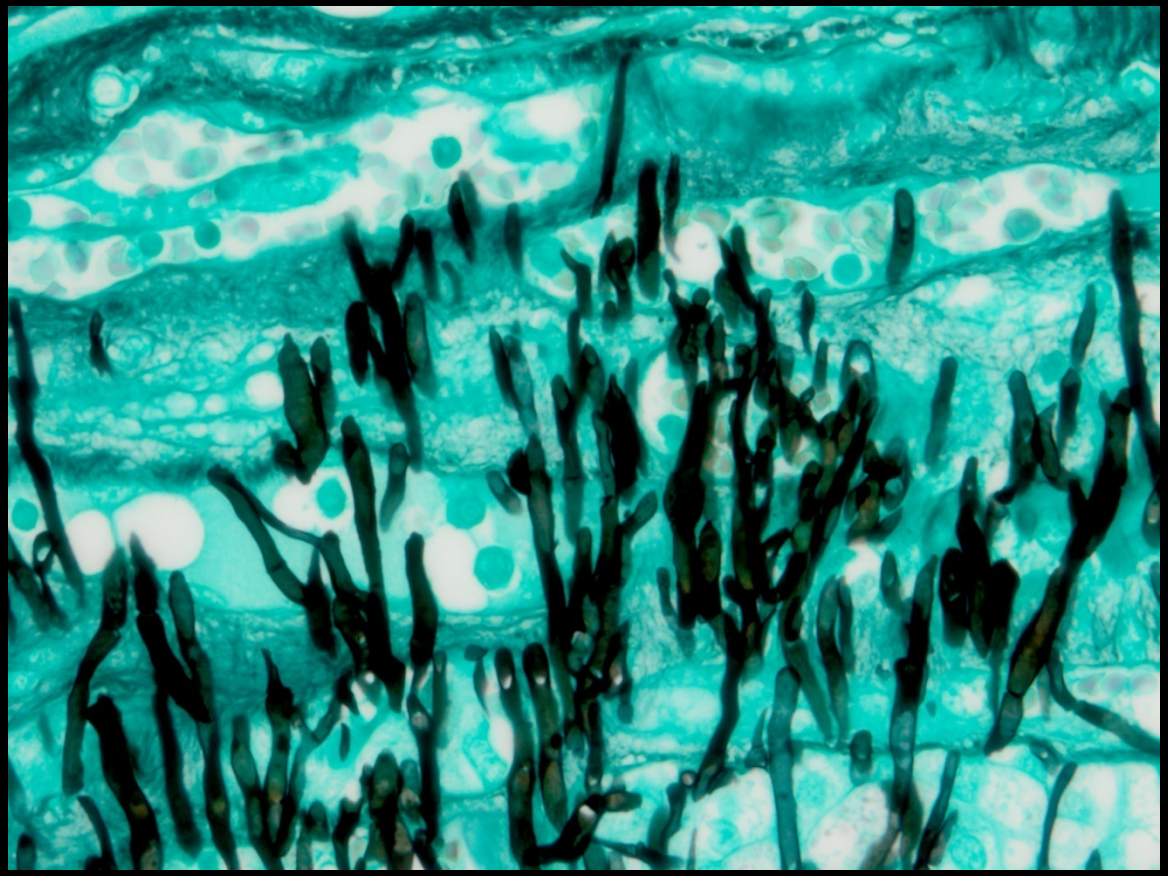
対物40倍

カンジダの染色性が薄い標本



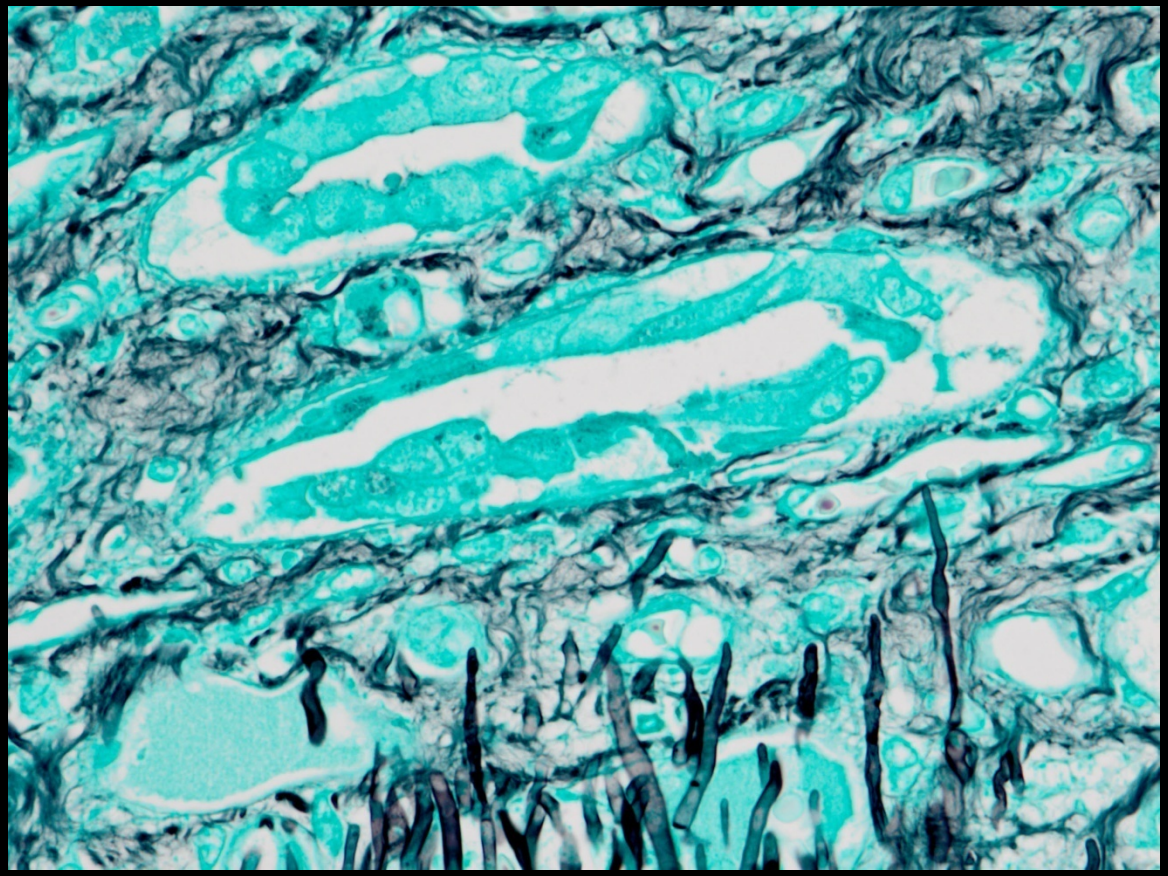
対物40倍

カンジダの染色性が濃い標本



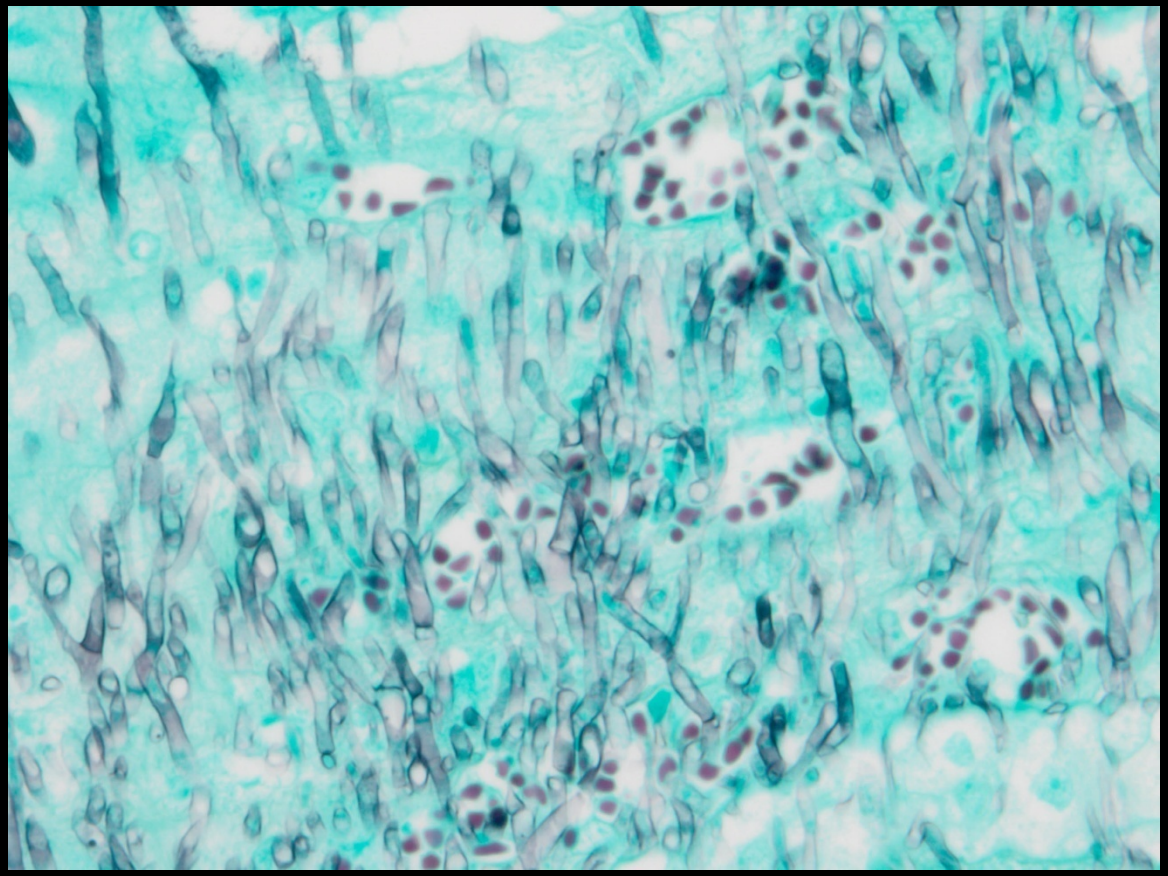
対物40倍

共染が見られた標本（結合織）



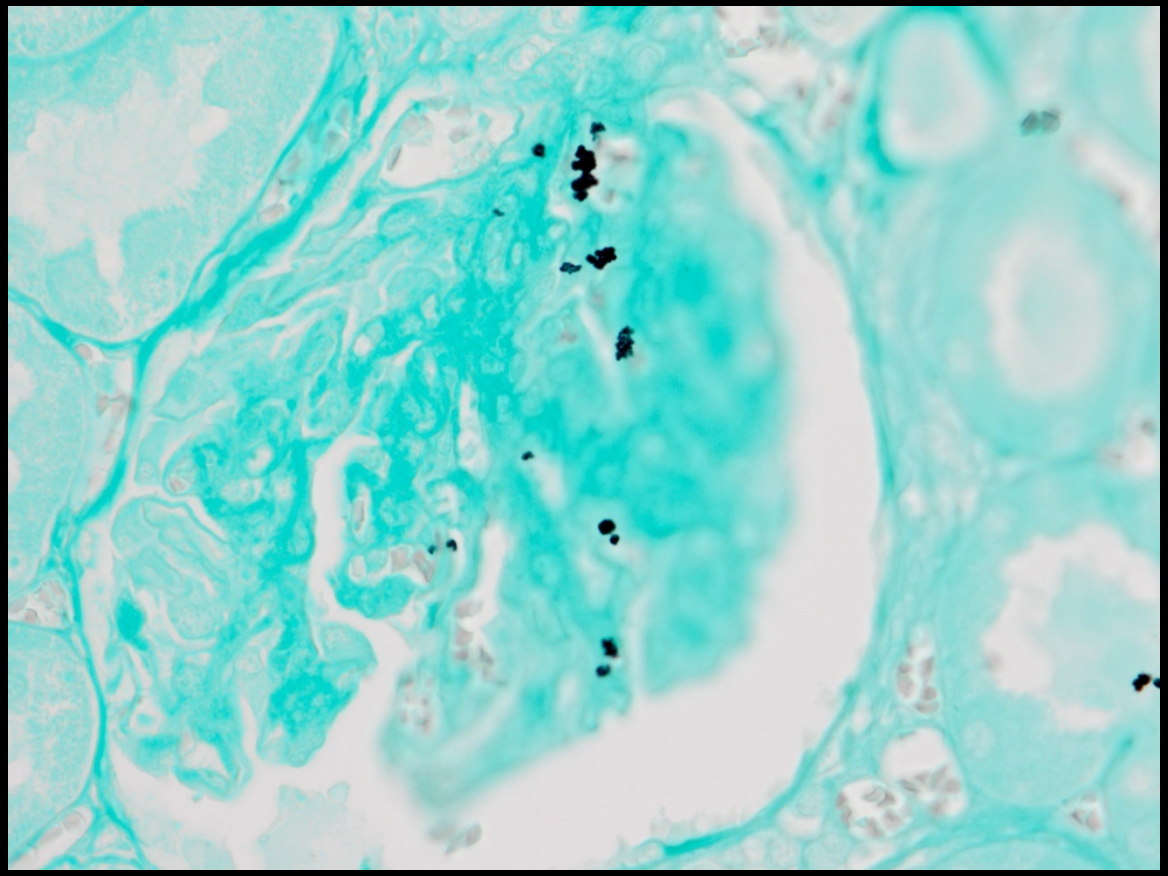
対物40倍

共染が見られた標本（赤血球）



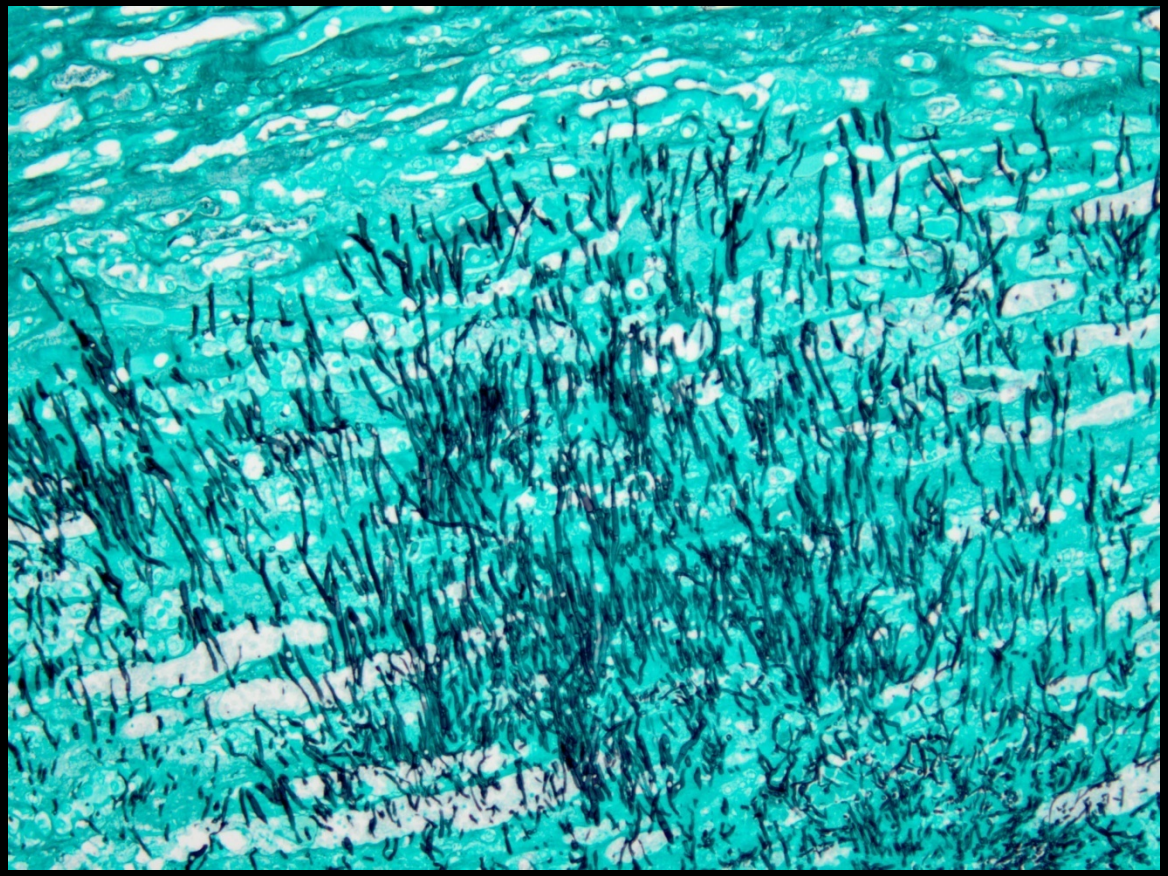
対物40倍

銀粒子の析出



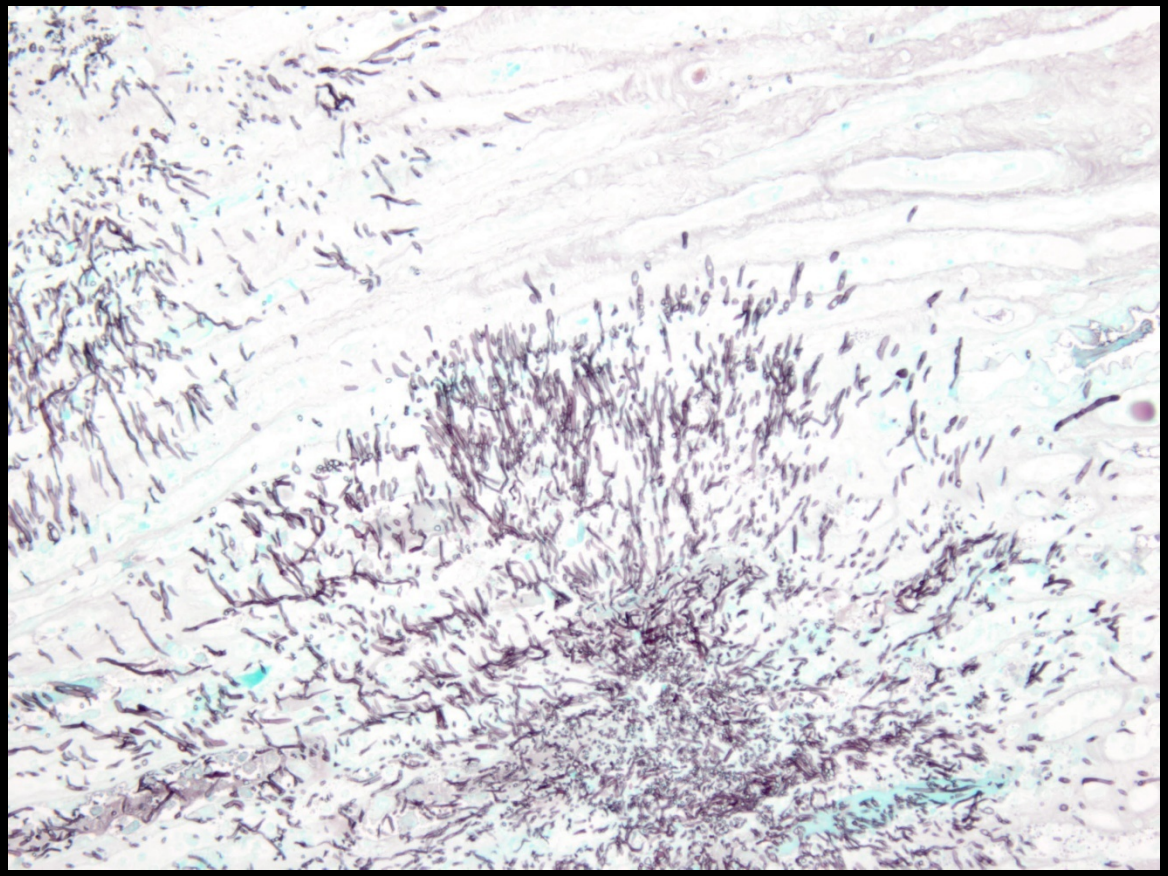
対物40倍

ライトグリーンが濃い標本



対物10倍

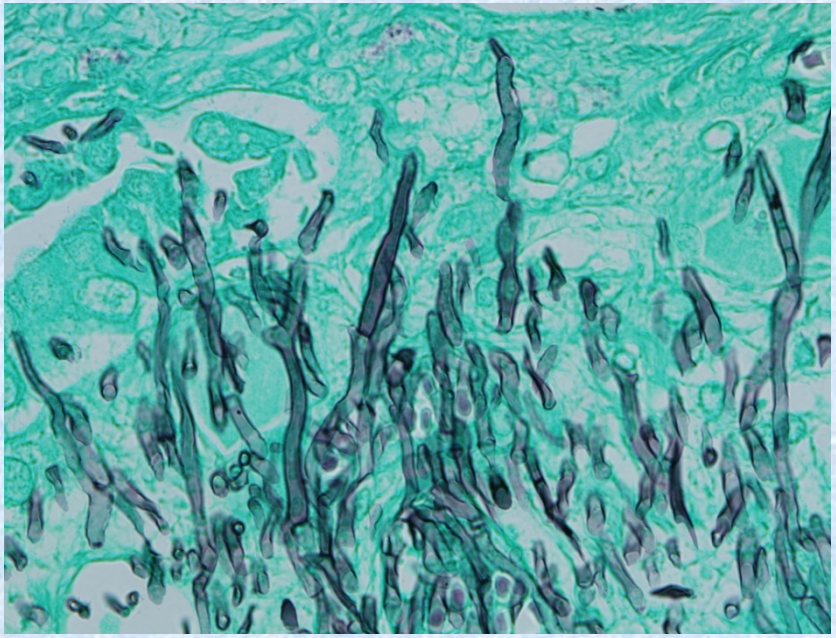
ライトグリーンが薄い標本



対物10倍

染色工程のアンケート調査

- 設問数　22



酸化時間

酸化時間	施設数
5分以下	2
16分	3
45分	4
50分	1
60分	36
75分	1
未回答	1

加温方法と評価

	A評価	B評価	D評価
孵卵器	22	8	1
温浴槽	5	5	0
ホットプレート	5	0	0
その他	2	0	0

１年間の染色枚数

年間染色枚数	施設数
1～20枚	27
21～40枚	8
41～50枚	5
51～100枚	5
101～190枚	3

今回使用したライトグリーン液について

- 新調した　　23施設
- 新調していない　　25施設

考　察

- D評価となった施設は、試薬の劣化が原因と考えられた。
- A評価の施設数の減少は、年間染色枚数との関連が一要因と考えられた。
- ホットプレート法は、スライドグラス上の銀液が均一に加温されることで良好な染色結果をもたらしたと推察された。

まとめ

- ホットプレート法の検討が今後の研究班活動の課題である。
- 技師の染色技術向上のために、学習会や基礎講座を開催する必要性が研究班に求められた。
- 今後も特殊染色の精度管理を定期的に行うことで施設間差是正と標準化の一端を担うよう努めたい。

ご清聴ありがとうございました